

# 都の養護学校

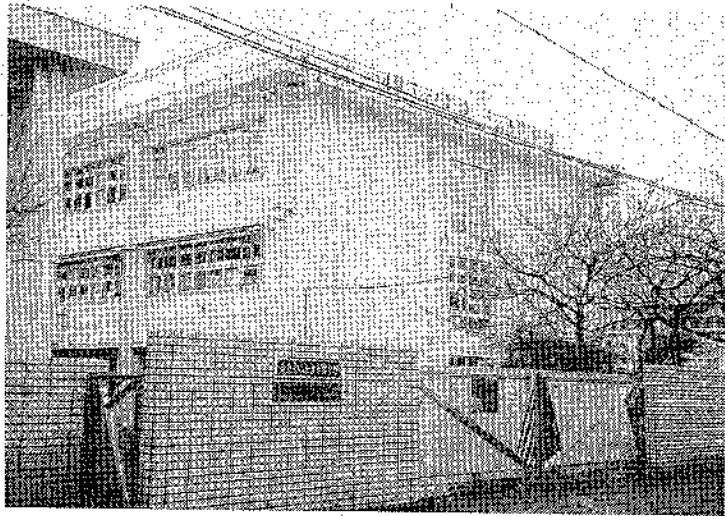
東京都立養護学校で性教育の授業が逆風にさらされている。子どもの実態を踏まえてつくられた授業や教材が「行きすぎ」「不適切」とされ、都教育委員会から嚴重注意処分を受ける教員が続出。教員は「授業も見ないで決め付けられた」と反発し、親たちも「親の要望に基づいて取り組んでくれていたのに」と不満を募らせている。

## 性教育に逆風

### 都教委「行きすぎ」と処分

保護者らは「処分は不当」として東京弁護士会に人権救済を申し立てた。申立人には映画監督の山田洋次氏や脚本家の小山内美江子氏など千五百人余りが名を運んだ。発端は七月の都議会で

「質問。『行きすぎた性教育』の例として知的障害児が通う七生(ななほ)養護学校(日野市)がやり主に挙げられ、都教委は急ぎ調査委員会を設置した。その結果、同校の教員十三人と他校に異



性教育の授業をめぐる教員が嚴重注意処分を受けた東京都立七生養護学校(東京都日野市)

### 体の大切さ伝える歌や教材

## 「内容はしっかり」保護者や教員反発

七生養護学校で問題になったのは教員が授業で

射精の仕組みが分かる男性器模型といった不適切な教材を使用したなどと指摘。これらの教材を学校から没収した。同校は小学部から高等部まで約百六十人が通う。七年ほど前、子どもたちの間で性的な問題が起きていたことが分かり、本格的に性教育に取り組み始めた。

「からだつた」は同校の教員が作り、年に数回ある性教育の授業の冒頭に歌っていた。「子どもたちに体の学習が始まると意識させ、あなたの体は大事なんだよという思いも伝える。性器の名称だけ避けるのは不自然」とある教員。

歌っていた「からだつた」。頭からつま先まで体の部位を歌つ中で「ペニス」「ワキナ」と性器の名称が登場するが「障害」の程度や発達段階を考慮していないとされた。都教委はこのほか①出陣場面が映ったビデオを上映②性器の付いた人形を使って性交について指導③「子宮内体験袋」や

「子宮内体験袋」や教員は「障害児は自分

# はじむ



## 家庭地域

射精を言葉で説明するだけでは理解できず、具体的な教材が欠かせないという事情もある。学校が開いた保護者会では都教委を批判する声も相次いだ。ある親は「知的障害の子は知識不足から被害者にも加害者にもなるので、性教育は切実な問題。親には教えられないのも同じ狙いだ。飲めないことも多い。思いや迎えて生まれたんだとりの心を育てるなど広い思えるようにしたい」と意味での性教育もいっか説明する。子どもたちも問題なのか」と疑問を投げかけている。

### 聞いて！親のつよき

息子たち夫婦は、休日の土曜日を利用して孫一人ともども、毎週わが家へ昼食に来るのがこの数年恒例になっている。近くの町に住んでいるが、疎遠にならぬようにと「週に一回くらいは、両親の家に顔を見せるように」といって、現在まで続いている。

孫たちも小さい時は祖父母の家に来て遊ぶのが楽しみだったが、小学校の高学年になると、学校の行事や友達との遊びが忙しく、最近はお孫を出すのが夫婦一人の時が多くなった。

### 心から通じる親子とは

「子た食に作っといえ一問話よつたを見指導反省る。およりの心かなくない子関を妻う。るつち